

新井中央小だより

No. 308

ホームページ <https://myoko.schoolweb.ne.jp/15020005>メールアドレス myoko.araichuou-es@edu-niigata.ed.jp

2025(令和7)年7月22日

命を守る！ 命の尊さ、人権意識、自己肯定感

1学期も残りわずかとなりました。教育活動では改善を加えながら、「自分も みんなも 明るく うれしく よかったね」の合い言葉を目指してきました。予定していた教育活動を滞りなく展開できたのも、保護者・地域の皆様のお陰です。感謝申し上げます。教育活動の成果課題については2学期に学校評価結果と共にお伝えします。

さて、夏休みを直前にしたこの時期、命について考えさせられます。夏休み中お盆や終戦の日などがあり、命に関する報道も多くなるからでしょうか。同時に、子どもにとって楽しいはずのこの夏休みに、様々な事故や自死などにより、大切な子どもたちの命が失われてしまう報道も聞き、何とも言えない悲しい気持ちになります。

子どもの命を守るのは、私たち大人の大切な役割です。事故死や自死は絶対に招いてはいけません。そのために、大人が、日々子どもをよく観察し、変化に気付き、温かな声掛けをすることが第一です。事故が起きない安全安心な環境を整えたり、危険を回避する能力を育てたりすることも、学校、家庭、地域の役割だととらえています。どうか、夏休み中、そして夏休み明けは、特に家庭でのお子様の見守りをお願いします。

では、子どもたち自身の「命を守ろう、命を大切にしたい」とする意欲や態度は、どうやって培っていけるのでしょうか。1年生が1学期中大切にアサガオを育てました。朝水をやりながらアサガオに語りかけている子もいました。先日1年生は校長室に来て「ヤギを飼いたいです。大切に育てます。」と話してくれました。栽培飼育の体験活動で命を守る意識は高まります。また、大人から、「あなたの命は大切です。生きているだけでうれしいよ。」と言ってもらい大切に育ててもらえたなら、子どもも自分の命を大切にしたいと思うはずです。

私は、特に子どもたちの「命を尊ぶ気持ち」、「人権意識」、「自己肯定感」を高めることが重要と考えます。私は、小さい頃から、終戦時に小学生だった父から、何度も戦後の貧しかった頃の話の話を聞きました。空襲の話、戦争中に自分の父を失い、兄弟が生きたために新聞配達をしながら食料を集めた話など。何度も話を聞きながら、私は子どもながらに必死に生き抜く姿勢や命の尊さについて考えました。大人が子どもにする命の話は、命の尊さに気付かせ、命を守ることに繋がります。また、教員になってから、社会科巡検などで、実際に現地に行き、社会事象を学ぶ機会を得ました。水俣市の水俣病、渡良瀬川流域の足尾銅山鉱毒事件等、多くの見学地で人権を脅かす環境被害や差別事象に出会い、被害者や被差別者の話を聞きました。当事者意識が高まり、人権について考え、「人は生まれながらにして人間らしく生きる権利があり、それは脅かされてはいけない。自分もみんなも自分らしく生きなければならない。」そんな気持ちを抱きました。自他の人権について考えることは、自他の命を守ることに繋がります。さらに、子どもたち自身が「自己肯定感」や「自己有用感」を抱くことが必要です。周囲の大人や仲間からの無条件の愛、信頼、信用、認めてもらうこと、感謝の言葉などが必要です。また、物事に挑戦し、それを乗り越え、やり抜き、新しい自分を発見したり、自信をもったりすることや、人のために役立ったと成就感をもつことも、「自己肯定感」や「自己有用感」を高め、命を守る意識の向上につながると考えます。

通知表について

学校説明会でお伝えしたように、今年度、子どもたちの学習評価を2学期制にしましたので、通知表は9月30日にお渡しします。7月までのお子様の成長や学習や生活の様子は、7月末の個別懇談の際に詳しくお伝えします。また、日々のがんばりや課題等は日常の中で適宜子どもたちに伝えています。

人権教育、同和教育を学ぶ会

9月19日(金)午後、「人権教育、同和教育を学ぶ会」を開催いたします。1～5年生の「なかま」の時間の公開授業、6年生と全保護者・地域の方を対象とした講演会、ワークショップを行います。

講演会の講師は、「寝た子なんているの？-見えづらい部落差別と私の日常-」の著者でいらっしゃる上川多実様です。保護者や地域の皆さんから参加していただき、子どもと一緒に差別やいじめのない地域社会をつくっていきましょう。